



三国中学校だより

【校訓】誠心 自主 創造

— 主体的に学び、協働してよりよい人生と

社会を創る生徒の育成— 合言葉:進取果敢



小郡市立三国中学校

第 17 号

令和8年9月16日発行

文責 校長 米倉佳美

全国学力・学習状況調査の結果①【全国学力調査について】

文部科学省が全国の中学3年生を対象に行った「全国学力・学習状況調査（国語・数学…4/23 実施）の結果についてお知らせします。（英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」…4/21 実施）（英語「話すこと」…4/30 実施）」 ※英語は次号でお知らせします。

【調査の目的】

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査内容】

①教科に関する調査（国語、数学、英語）

※中学校英語は、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式での実施

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②質問調査

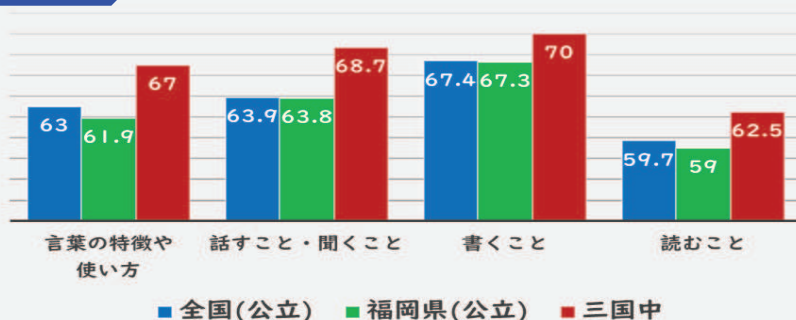
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料は以下の URL

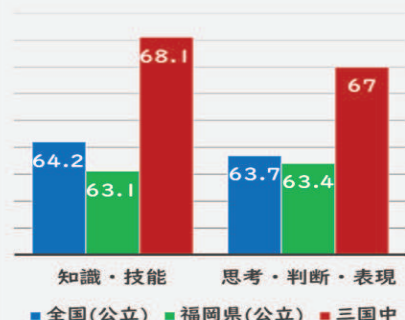
<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

国語

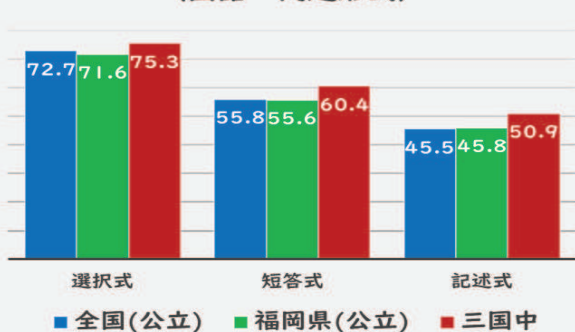
〈国語 学習指導要領の内容〉



〈国語 評価の観点〉



〈国語 問題形式〉



国語では、平均正答率において、全国を 3.1 ポイント、県を 4 ポイント上回る結果となりました。

正答率が最も高かったのは、「多数決をとる→採」「投げ上げたボールを落とさずにとる犬→捕」「遠くの美しい山並みをとる人→撮」という、文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題でした（知識及び技能「言葉の特徴や使い方」全国+10.4 福岡県+11.7）。

また、次に高かったのは、「きっぱり」という擬態語が含まれている文とそうでない文を

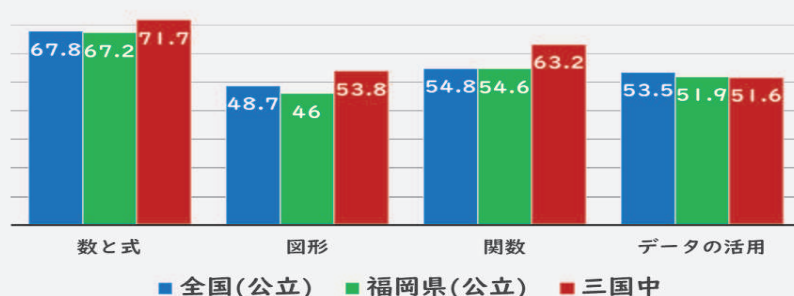
比べながら、「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題でした（思考・判断・表現力「読むこと」全国+10.5 福岡県+10.1）。

一方で、全国・福岡県ともに平均正答率を下回ったのは、文章に書かれている擬音語・擬態語の特徴として挙げている4つの要約から適切なものを選択するという問題でした（思考・判断・表現力「読むこと」全国-5.2 福岡県-3.2）。この問題の中には「要素」という抽象的な概念を表す語句が用いられており、この語句の曖昧な理解が内容を具体的に捉えることを困難にしたのではないかと考えられます。

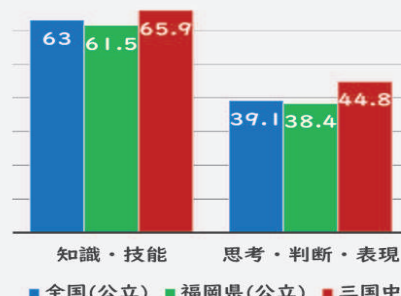
意味が分からない語句や分かったつもりになっている語句については、一度立ち止まって確認しながら学びを進めてほしいと思います。

数学

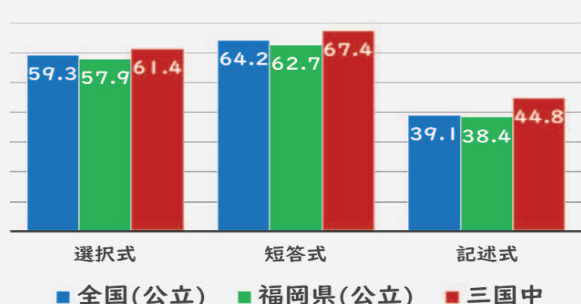
〈数学 学習指導要領の領域〉



〈数学 評価の観点〉



〈数学 問題形式〉



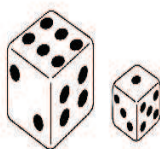
数学では、平均正答率において、全国を4ポイント、県を5ポイント上回る結果となりました。

正答率が最も高かったのは、反比例の表において、 x の値が-3のときの y の値を求める問題でした（知識・技能「関数」全国+15.8 福岡県+14.3）。

また、次に高かったのは、三角形が合同であることを証明することで、対応する角も同じ角度であることを導く問題でした（思考・判断・表現力「図形」全国+9.5 福岡県+12.3）。

- 5 大小2つのさいころがあります。この2つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6であり、小さいさいころの目が1である確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも1から6までの目の出方は、**同様に確からしいもの**とします。

どんな意味でしょう？



一方で、全国・福岡県ともに平均正答率を下回ったのは、大小2つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める問題（知識・技能「データの活用」全国-8.5 福岡県-5.5）と、全校生徒の睡眠時間の度数分布表において累積度数を求める問題でした

（知識・技能「データの活用」全国-3.8 福岡県-0.2）。

この2つの問題に共通しているのは、「データの活用」の領域であるということです。例えば、「累積度数とは？」について授業で学んだときにはよく理解できていても、時間の経過とともに理解が薄れていくということはよくあることです。なぜなら日常生活の中で「累積度数」という言葉を使うことはあまりないからです。考え方はよく使っていると思いますが。どういうこと？と思ったときは言葉の意味を探ってください。「累積」は、かさなりつむることと辞書にあります。つもりつもって増えるというイメージをもてば解に結びつけることができそうです。